

## 花外楼

徳光 正子(花外楼女将)



歴史ミュージアム展示風景

中之島公園にバラが咲き始める頃、川面をうらかな春風がそよぐ5月2日(土)。この度「花外楼1日歴史ミュージアム」の開催前に歴博友の会の方々が、北浜の本店料亭に多数お越し下さった。昭和39年に建った3代目の店が建て替えのため7月末をもって休業に入る。それを記念して一般の方々にもこの機会に花外楼ゆかりの掛軸や扁額、調度品等々料亭を解放してご覧いただくことと企画した1日だけの展示会である。当日は老若男女1600人もの郷土を愛する方々が来店され大盛況だった。グラバー邸の支配人が来られ、五代友厚の

紹介で花外楼でグラバー氏が結婚されたとか、鎌倉在住の方でたまたま大阪訪問の折新聞記事をご覧になり、曾祖父小牧昌業の作品に出会い感激された等々嬉しいお話もいろいろ伺った。明治8年1月に大阪会議のため木戸孝允が大阪入りする機会に合わせてアメリカ帰りの新島襄が、加賀伊を訪れている。新島襄は大阪に私立学校を創設したかったようで志に共鳴した木戸孝允が当時の知事渡辺昇や富豪の磯野小右衛門を周施し教育のために尽力している。もう一つの大阪会議だと作家安部喜雅氏が教えて下さった。日本の将来のために不仲であった大久保と木戸が和解して立憲政体の礎を築いたと言われる大阪会議。ここに集い熱い議論を交わした先人達の歴史は現在の私達大阪人にとっても誇りであり貴重な歴史の一頁である。料亭とは、多くの人々の歴史と思い出の詰ったところ-書画にも単なるコレクションではなく、それぞれの物語がある。歴博の方々にもその中の一部をご覧いただいた。拙い私の説明ではあったがしばし明治の昔に思いを馳せてタイムスリップした一時を過ごしていただけたなら嬉しいのだが。一期一会のこの出会いに感謝して新しい歴史の一步を前を向いて歩いてゆきたいと思う。



歴史ミュージアム展示風景



## 重要文化財旧小西家住宅

小西 哲夫(コニシ(株)取締役)

大阪船場、道修町の堺筋沿いにひときわ目立つ漆黒の館。旧小西家住宅が完成したのは1903(明治36)年、二代目小西儀助によって建設されました。木材集めから細部の意匠までこだわり抜き、3年の月日を経て誕生したその豪壮な屋敷は、道修町に面して主屋、伏見通りに面して蔵、堺筋に面して貸屋という、なんとも贅沢な配置でした。その後、1911(明治44)年の市電開通に伴う堺筋の増幅など、時代を映す出来事によって何度か改築を余儀なくされましたが、くしくもそれが、土蔵が立ち並ぶ現在の味わい深い姿へと結びついていったのです。

現在も旧小西家住宅が往事の姿をとどめている理由のひとつに、“災難に強い”ということが挙げられます。第二次世界大戦の大阪大空襲では、間一髪で戦火をまぬがれ、1995(平成7)年に発生した阪神淡路大震災でも、古い木造住宅が倒壊する中、ほぼそのままの姿を保持。二代目小西儀助の建物へのこだわりが、事実上の強度となって支えたのかもしれませんが。

そして平成8年に「登録文化財原簿」に登録、平成13年には文部科学大臣により国の「重要文化財」に指定されます。完成以来、100余年にわたり風雨や災害に耐えてきた旧小西家住宅ですが、劣化の進行や風の影響による瓦の落下などが懸念されるようになり、屋根瓦の葺き替えと浴室の一部を改修することになりました。そして平成23年2月28日、旧小西家住宅の改修工事は無事完了。息を吹き返した旧小西家住宅は、歴史を紐解く重要な生き証人として、以前と変わることなく静かに大阪の商家としての佇まいを残しています。


## 戦前の大阪管見

脇田 修

昨年、友の会の会合で、「私の子ども時代の大阪」と題して話をさせて頂きました。戦後の大阪とはかなりの変化がありますので、いずれ書いておきたいと思うのですが、ここではその一部を記しておきます。

私が生まれたのは、大阪梅田の北、古書の町の西側にある商店街で、衣料品店をやっていました。もっとも商店街は一部の飲食店などを残して無くなっていますが、戦前は周囲に民家も多く、繁盛していました。

家には、電気・ガスはもちろんきていましたが、まだかまどがあり、薪炭店から薪を買って、炊飯をしていました。冷蔵庫はある家は少なく、暖房も戦時体制のせいもあって、ストーブより火鉢で暖をとっていたと思います。商店街ですから、寿司・うどんなどの食料店もあり、阪急百貨店では、ハンバーグ・えびフライのついた確か五十





銭のランチがあったと覚えています。曾根崎小学校入学の頃から日中戦争となり、太平洋戦争となりますが、やがて生活自体もきびしいものとなります。そのなかで文化も軍事色が強くなるのですが、おもしろいのは替え歌がはやったことです。「愛国行進曲」は「見よ東海の」あとが、「ポテト焼き、油で揚げてゴマ振って、一銭二銭と買いに来る、小父さん小母さん負けとくれ」となるのです。「戦友」も「赤い饅頭に白饅頭、食べて見たらうまかった」とあって、食物のことになるのは、食料難の世相を反映しています。

そして敗戦による生活の変化など、友の会の皆様方も何らかの形で、この大変動の時期を記しておいてほしいと思います。

## 「民都大阪の建築力」の「民都」とは？

飯田 直樹

現在開催中の特別展「民都大阪の建築力」は、大阪の近代建築の魅力を、「描く力」、「装飾の力」、「伝える力」の各視点から紹介するものです。タイトルにある「民都」は聞き慣れない言葉ですので、担当者の一人として、少し補足したいと思います。「民都」という言葉を使った理由については、開催趣旨文などに記載されておりますので、そちらをご覧ください。ここでは、この言葉についての私の考えを2点述べておきます。第一は、この展覧会では、大阪が「民都」であると主張したいのではないということです。大阪の性格や特徴を一言で表現するのは難しいし、「危険」なことだと考えます。近代大阪には様々な性格があり、今回の展覧会は、そのうちの一つの性格、つまり「民都」という性格に注目してご紹介するものだと私は理解しています。第二は、ひとくちに「民都」といっても「いろいろ」だということです。株式仲買人岩本榮之助の寄付による中央公会堂の建設(①)、戦前特有の学区制度のもとで各学区の住民達によって建設された豪華な小学校校舎(②)、「市民」の寄付金によって復興された大阪城天守閣(③)。いずれも「民都」大阪を象徴する事例ですが、それぞれ時期が違いますし、またその性格や歴史的意味も異なるものだと考えます。①については、富豪達が社会矛盾を和らげるために様々な「公共事業」に私財を投下せざるを得ない時代(日露戦後)になされたものの一つであり、②については、戦前の小学校が各学区のコミュニティセンターとしての役割を果たしていたという事実をふまえて理解する必要があると考えます。また、学区同士の競争意識が働いていたということも見逃せません。③については、昭和恐慌期に寄付金募集がなされたこともあり、市民による寄付といっても、自発的な意志というより動員・強制という面が強かったと考えます。つまり、3つの事例だけでも「いろいろ」なものであり、同列に論じることはできないのです。以上、限られたスペースのなかで不十分な説明になってしまいましたが、展覧会図録で、私の考えの一端を述べておりますので、詳細はそちらをお読みください。



連載

# 「浪花百景」

～北区天満1丁目 滝川小学校～

第14回

川崎 御宮

大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼした徳川家康は、元和元年(1616)に没するとその子で江戸幕府の2代将軍である秀忠は、家康を東照大権現という神様としてまつり、各地に東照宮という神社を立てる事を命じた。大坂には当時の大坂城代である松平忠明たちによって東照宮がたてられた。

一説には豊臣家をうやまう大坂の人々の思いを薄れさせるために建てられたともいわれている。一般の人々は家康の命日である4月17日を中心に5日間は特別にお詣りすることができた。明治6年(1877)になって廃社され現在は滝川小学校となっている。造幣局の近くにあり最寄の駅は天満橋、南森町から徒歩10分くらいのところだ。



## 大阪歴史博物館 開館10周年記念特別展「民都大阪の建築力」

近代の大阪では、民間の手による事務所や百貨店などで、時代の先端を行くデザインの建築が数多くつくられました。また、大阪市中央公会堂や大阪城天守閣などの公共建築でも、設計競技や市民の寄付により、優れた構造・意匠と豊かな細部装飾を持つものが生まれました。これらの建築は、いまでも大阪のシンボルとして親しまれています。

本展覧会では、大阪の近代建築の魅力を紹介します。図面やスケッチ、細部装飾など約250点の展示品を通して、近代建築の魅力とそこに込められた人びとの思いを感じとり、今後の大阪の建築やまちづくりを考える一助にいただければ幸いです。

- 会 期／平成23年7月23日(土)～9月25日(日) ●主催／大阪歴史博物館
- 後 援／NHK大阪放送局、社団法人 日本建築家協会、社団法人 日本建築学会、社団法人 日本建築協会、社団法人 日本建築士会連合会、社団法人 日本建築士事務所協会連合会
- 開館時間／午前9時30分から午後5時まで(金曜日は午後8時まで)
- 会 場／大阪歴史博物館 6階 特別展示室

### 編集後記

今年度から友の会事務局の担当が加藤に変わりました。よろしくお祈いします。歴博は今年の11月3日で開館10周年を迎えます。今号で紹介した特別展「民都大阪の建築力」と、10月から開催予定の「心斎橋 きもの モダン」の二つの展覧会は、自主企画の展覧会です。ぜひ足をお運び下さい。